

徳川から明治へ

from TOKUGAWA
to MEIJI

令和元年度収蔵品展

会期：令和元年 8 月 31 日 **土** ～

9 月 23 日 **月** 会期中展示替えあり

開館時間：9:00 ～ 17:00

（8 月 31 日は 18:00 まで。最終入場は閉館の 30 分前）

会場：静岡県富士山世界遺産センター
企画展示室

会期中の休館日：9 月 17 日 **火**

観覧料：300 円（団体割引あり）

70 歳以上・大学生等以下・障がい者は無料
（証明書をご提示ください）

※今回の企画展は常設展観覧料でご覧いただけます



狩野董川中信筆「富士飛鶴図」



梅堂国政（三代歌川国貞）画「青山練兵場観兵式」

関連イベント

図書館講座 富士山絵画からみた「帝国」の誕生

—幕末明治の浮世絵を中心に—

日時：令和元年 8 月 21 日（水）14:00 ～ 15:30

会場：富士宮市立中央図書館 2 階視聴覚ホール

講師：松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター教授）

※ 申込みは富士宮市立中央図書館

（0544-26-5062 / 7 月 19 日受付開始）まで

館内講座 帝国の誕生 —近代天皇と富士山イメージ—

日時：令和元年 9 月 15 日（日）13:00 ～ 14:00

会場：静岡県富士山世界遺産センター研修室

担当：松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター教授）

※ 事前申込不要（50 名先着順）

記念講演会 明治浮世絵の魅力

日時：令和元年 9 月 15 日（日）14:00 ～ 15:00

会場：静岡県富士山世界遺産センター研修室

講師：庵原理絵子（美術史家・浮世絵研究者／学習院大学・玉川大学講師）

※ 事前申込不要（50 名先着順）

展示解説 日時：令和元年 8 月 31 日（土）、

9 月 15 日（日）、

9 月 23 日（月・祝）

8 月 31 日・9 月 23 日は 14:30 ～、

9 月 15 日は 15:15 ～

会場：静岡県富士山世界遺産センター企画展示室

講師：松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター教授）

※ 事前申込不要

新たな時代に屹立する富士山



静岡県富士山
世界遺産センター

お問い合わせ：〒418-0067 静岡県富士宮市宮町 5-12
TEL: 0544-21-3776 FAX: 0544-23-6800

アクセス：JR 身延線富士宮駅から徒歩 8 分
● 新東名高速道路新富士 IC から約 10 分
● 東名高速道路富士 IC から約 15 分

2019
SHIZUOKA
静岡県文化プログラム

徳川から明治へ

—新たな時代に屹立する富士山—

徳川将軍が統治した 260 年余、その居所である江戸は、“首都”としての地位を獲得します。全国から人材や物資、情報が集められた江戸は、やがて京都と並ぶ文化的な中心地となり、“徳川の平和”のもと未曾有の繁栄を謳歌します。こうしたなか、江戸そして徳川将軍と一体化するべき象徴的存在と位置づけられたのが富士山でした。京都や奈良など伝統的な畿内の都と異なり、東国に生まれた新しい都江戸からは、天候さえ整えば美しい霊峰の姿を遠望することができたのです。

江戸時代になると富士山は、以前にも増して美術・工芸や文学作品を彩るようになり、イメージとしての富士山が広く定着するとともに、富士山絵画が“ジャンル”として確立されます。富士山は将軍家御用絵師の狩野派により時代を通じて描き継がれるかたわら、一般市民層を主な対象とした浮世絵版画（錦絵）の主要な画題としても人気をあつめました。

錦絵のなかで富士山は、しばしば将軍の住む江戸城と重ね合わせるように描かれました。江戸市民の間においても、富士山は将軍と一体化するべき秀峰と認識されたのです。幕末期になると『御上洛東海道』や『末廣五十三次』など十四代将軍徳川家茂による上洛や長州征討を扱った挿物錦絵が出版されますが、このなかでも富士山は、将軍権威を荘厳化するための重要な“舞台装置”として位置づけられました。

徳川将軍の世が幕を下ろすと、富士山は新たな時代——明治の象徴へと読み替えられていきます。

明治天皇の東幸（東京行幸）を描いた錦絵の多くには、壮麗な行列や天皇を戴く鳳輿とともに富士山が配され、新しい王の誕生を寿ぐメタファーとして機能します。数々の観兵式や明治 22 年（1889）の帝国憲法発布式といった時代のターニングポイントとなる場面では、明治天皇を覆う天蓋のように富士山が描かれました。

名称を東京と改め西欧的な近代都市へと変貌していく首都の殷賑を鮮やかな原色とともに活写した錦絵群においても、画面の中核モチーフとして多く象徴的な役割を与えられたのは富士山でした。

徳川から明治へと時代が移りゆくなか、霊峰富士は変わることなく人々の心のうちに屹立し続けるのです。

静岡県富士山世界遺産センターの収蔵品を中心とした本展覧会では、幕末明治期の錦絵とともに新収蔵の狩野派絵画を展覧し、時代の転換期に富士山イメージがいかに位置づけられたかをひもといていきます。



二代歌川国貞画『末廣五十三次』「日本橋」

【主な展示作品】 会期中展示替えあり

狩野晴川院養信筆「富士山図」／狩野董川中信筆「富士飛鶴図」
 二代歌川国貞画『末廣五十三次』「日本橋」／歌川芳盛画『御上洛東海道』「府中（静岡）」
 三代歌川広重画「東京日本橋御高札場之図」／歌川芳藤画「東京府通町ヨリ呉服橋之遠景」
 梅堂国政（三代国貞）画「青山練兵場観兵式」／二代歌川国輝画「東京名所内桜田全図」
 三代歌川広重画「東京開化名所両国橋之真景」／歌川芳雪画「東京銀座煉化石繁栄之図」